

## 事業報告書（令和元年度）

事業名 ふるさとを知ろう「福谷八十八ヶ所巡り」

団体名 福谷おもしろえ〜マップ実行委員会

担当者名 田口 琢磨

※活動の様子がわかる写真（データもお願いします）と説明を必ず添付してください。

### 1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

令和元年7月2日 福谷チーズ工房にて 会員9人参加

第1回「冊子編集委員会」打ち合わせ会

内容：聞き書き勉強会、編集の進め方等の打ち合わせ

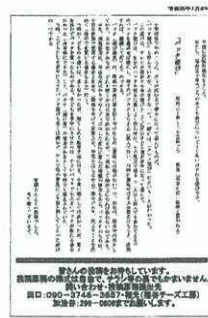
7月30日 福谷チーズ工房にて 会員8人、地域協力者4人

第2回聞き取り実施

内容：語り部4人から聞き取り、録音する。



7月24日 チラシ「かわら版」46号発行 JA足守支所の協力により福谷地区に配布  
「福谷のこと・あなたのこと」の自由投稿募集を福谷地区の皆さんに呼びかける。



8月28日 福谷チーズ工房にて 会員6人

第3回打ち合わせ会

内容：聞き書きについて原稿化し検討、訂正をし、追加取材する。

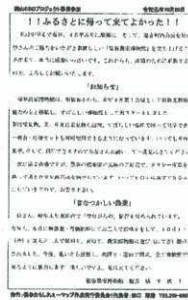
9月24日 福谷チーズ工房にて 会員5人

第4回打ち合わせ会

内容：聞き書きを中心に原稿再確認

10月20日 チラシ「かわら版」47号発行 JA足守支所の協力により福谷地区に配布  
蛍明小学校、足守公民館、福谷郵便局に配布

内容：福谷八十八ヶ所巡り実施のお知らせ、冊子への自由投稿募集



10月29日 福谷チーズ工房にて 会員8人  
第5回打ち合わせ会

内容：聞き書きのまとめの進捗状況や投稿募集状況の確認

11月20日 福谷八十八ヶ所巡りの遍路や札所の草刈り作業  
会員3人、地域協力者4人

11月29日 福谷チーズ工房 会員6人  
第6回打ち合わせ会

内容：冊子名の決定、編集構成、編集分担等の確認



11月30日 福谷八十八ヶ所巡り（1日目）の実施  
岡山市北区西山内、栗井、間倉、東山内、河原  
福谷地区住民、地区外の人55人（巡礼者及びお接待をしてくださった方）

内容

福谷八十八ヶ所巡り 1日目を実施する。（第1番札所～第51番札所）  
8：00～16：00まで約22Kmを歩いて地域の良さと自然豊かな里山、心温まるお接待を感じながら巡った。

当日、ケーブルテレビOn iビジョンの取材を受け、後日、放送があった。



(様式第8号)

12月1日 8:00~16:00

岡山市北区掛畑、真星、庄田、苔山

福谷地区住民、地区外の人 50人 (巡礼者及びお接待をしてくださった人)

内容

福谷八十八ヶ所巡り 2日目を実施する。(第52番札所~第88番札所)

8:00~16:00まで約22Km歩いて地域の良さを見つける。



12月20日 福谷チーズ工房 会員6名

第7回打ち合わせ会

内容: 岡山民俗学会立石憲利さんの冊子作成の指導助言を受ける。

聞き書きや投稿ゲラ状況等の編集と確認

令和2年1月28日 福谷チーズ工房 会員8名

第8回打ち合わせ会

内容: 立石憲利さんに冊子編集の最終確認指導を受ける。

冊子のゲラ最終確認



2月25日 福谷チーズ工房 会員6名

内容: 冊子完成、反省会



<p>2. ESDの視点を取り入れたところ、ESDの視点で見直したところ</p>
<p>私たちは、住んでいて良かったと感じ合える地域づくりを考え、身近なものの再発見・再認識し、高齢者から地域のあり様を聞き伝え、地域の文化伝統を将来に伝えていく活動を行った。</p> <p>2000年よりの主テーマである「福谷八十八ヶ所巡り」の活動は、地域全体を歩くことにより身近な地域を知ること。また、冊子「ちよっとむかしの福谷」は、地域の事柄を身近にとらえ、子どもたちに伝えることができると考えます。</p>
<p>3. 取組の成果（参加者にどのような意識や行動の教育上の成果があったか。感想など）</p>
<p>福谷八十八ヶ所巡りの活動は、参加者全員に地域の自然環境、地域の方のあり様や温かさ、地域の伝統文化を体験してもらうことができた。</p> <p>冊子「ちよっとむかしの福谷」は、子どもたち、地域の皆さんに身近な伝統文化・生活を再認識・再発見してもらう機会を継続的に提供できたことを成果と考えます。</p>
<p>4. 今後の課題と展望</p>
<p>少子高齢化で過疎化が進む地域で、地域の文化活動や伝統を将来子供たちに伝え継承することが難しい現在と考えます。</p> <p>これまでの活動は、地域を巡ることにより、地域の方とコミュニケーションや地域の自然などを体験できるよい企画と考えます。しかし、子どもたちの参加が少ないため、子どもたちに参加を呼び掛け、子どもたちに楽しく、興味ある活動を企画したいと考えます。</p> <p>また、本年度行った冊子作成は、地域を知るよい機会と考え、次年度もテーマを考え冊子作成したいと考えています。これらの活動は、地域の文化継承の一助となることを展望します。</p>